

# 安心して下さい！ 防災やっていますよ！

シリーズ『防災・思いの丈』。今回は「イソップ童話から学ぶ防災」について考えてみましょう。

そもそもイソップ童話は「イソップ寓話」と云われ、教訓的な内容を他の事柄に置き換えて表したもので、アイソーポス（イソップ）が作ったとされる寓話集です。特に動物、生活雑貨、自然現象、様々な人々を主人公にしたものが有名です。それぞれの話に隠されている「真にイソップが伝えたいこと」を知れば、納得の内容となるのです。その中で「**防災の教訓**」があります。皆さまもご存知のお話ですがご紹介いたします。

## 【アリとキリギリス】

ある暑い夏の日。太陽がギラギラ照りつけて焼けた地面をアリたちが大きな荷物を背負ったり引っ張ったり、せっせと運んでいます。しかし、木陰の涼しいところでは、キリギリスたちが昼寝をしたり、音楽会をして楽しそうに遊んでいます。

キリギリスがアリに声を掛けました。「アリさん、こんな暑い日にどうしてそんなに重い荷物を運んでいるの？」

アリは答えました「冬になると食べ物が無くなるので**食べ物がたくさんある夏の間を集めておくのです**」

キリギリスが云いました「冬の用意とは気が早いね。こんな暑い日は遊ばなくっちゃ。働くなんてバカバカしい」と馬鹿にして笑いました。

アリは怒って云いました「遊んでばかりいると、後で困るのはキミたちですよ」

アリは唄を歌って馬鹿にするキリギリスの側を通り、せっせと食べ物を運びます。

夏が終わり、秋も過ぎ、冷たい木枯らしが吹く冬になります。

キリギリスはブルブル震え「おー寒い。どうしたことだ。どこにも食べ物が見つからない」お腹が空いてフラフラのキリギリスが雪の道を歩いているとアリの家が見えました。トントントン。キリギリスがドアをノックすると中からアリが出てきました。

キリギリスは云います「死にそうなんです。何か食べ物を食べさせてください」

困っているキリギリスにアリは云いました「いいですよ。でも、もう暑い中を働いている私たちを見て笑ったり馬鹿にしたりしないと約束してください」と云って食べ物をキリギリスに分け与えました。おしまい・・・おや？結末はこんな風だった？と疑問に思った方も多いのでは。これは、イソップが考えた本来の結末とは違います！

冬になってアリを頼ってきたキリギリスに「キリギリスさん。夏の間、ずっと歌っていたんだもの仕方がないよね。冬も踊っていたら」とアリはそう云うとバタンとドアを閉めてしまいました。おしまい！と云う話が、本来イソップが伝えたかった話なのです。そうなんです。結末の部分、キリギリスがかわいそうだと後の世になり、話が入れ替えられたもので、現代では「**食べ物を分け与える**」と云うストーリーで伝えられることが多いようです。

イソップの思いは、汗水垂らしてしっかりと備えをしないと、災害が起こったときには食べ物ひとつありません。だから少しでもいいから働いて、備えていないといけませんよと伝えたかったのです。ところが、後世の人間が自分たちの都合のいいように、キリギリスがかわいそう！死んでしまうなんて！少しくらい食べ物を分け与えてあげようよ。と改編されたのです。

冬は毎年やってきます。毎回、備えをしないキリギリスは、備えをしているアリを頼ります。でも、アリの本音は「**もう私たちに頼ってくるのはいいかげんにしてほしい**」となっているのではないのでしょうか。

今に置き換えれば、これだけ災害が来ているのに、まだ何の備えもせず、家具の転倒防止すらやってない人が山ほどいる。そこには災害が発生しても「**誰かが助けてくれる**」と思っている人がまだまだ多いのです。備えをしている人から見れば、もういいかげんにしてほしいというのが本音なのです。備えをしている人は、過去の教訓から災害を想定して、何も有り余ったお金ではなく、毎日汗水垂らして頑張って貯めた命の次に大切な自分のお金で、備蓄品やら備蓄食料を買いそろえ備えています。

ところが、一度災害が来ると備えをしていない人は「**何も備えてない、食べる物もない**」と云って、備えをしている人を探し「**助けてもらう権利があるかの如く振る舞う**」厚かましく感じる不思議な光景です。自分は備えず、最初から備えている他人を当てにしている人たちが非常に多い今の日本の現状です。

何が問題かわからない方にもう一度解説します。日々の備えをしているからこそ、災害が発生しても、復旧・復興は素早くできます。備えがなければ、復旧・復興には時間が掛かるだけではなく、命をも落としてしまうのです。「**助ける人と助けられる人**」という非常に怖い構図ができあがっています。だから、備えない人がいつまでも減らないのです。「**いつだって助けてもらえる**」と本気で思っている人があまりにも多いのです。「**自分も備えなければ**」と思う人を増やさなければ、次の災害でまた命が失われる事になります。・・・次回は「防災活動の目指すところ」

